

ング、二度縫ピンキング、パイピング、オーバーロック縫の10種を用い、それぞれについてほつれ、収縮の状態をそれぞれ比較した。

3. 始末方法によるほつれはオーバーロック縫の場合が最も少なく次いで折伏縫と袋縫がこれにつづいた。しかし、ピンキング、二度縫ピンキング、レーヨン布におけるパイピングにおいては損傷が著しく大きかった。

B-23 電気洗たく機による布地損傷防止方法について

京都教育大家政 石沢 スミ
○杉本 弘子

1. 衣料類の洗たくの際電気洗たく機の利用は従来の手洗い法に比べて、布地損傷の著しいことは述べるまでもない。しかし、この際の損傷は主として布地のほつれによる場合が多い。したがって、布地端の始末方法と密接な関係があるものと考えられる。このような見地から布地の始末方法と洗たく機の損傷との関係を検討することとした。

2. 供試布として木綿、モスリン、絹、レーヨン、アセテート、ナイロン、テトロン7種をそれぞれ経40cm、緯72cmに裁断して用いた。洗たく機は予備実験で渦巻式、噴流式、攪拌式の3種中渦巻式の損傷が最も大きかったので渦巻式と手洗法を用いて比較することとした。洗剤として粉末石鹼を用い時間は渦巻式10分、手洗いは5分間とした。洗たく後流水で2分間すすぎを行なった後、常法により脱水し自然乾燥した。始末方法としてかがり縫、折伏縫、袋縫、端ミシン、折端ミシン、ピンキ